

(8) 中国



中国地域では、景気は東日本大震災の影響により、弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は東日本大震災の影響により、減少している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

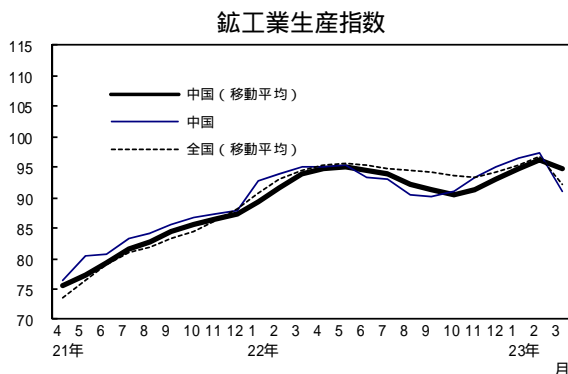
前回調査からの主要変更点

	前回(平成23年2月)	今回(平成23年5月)	
景況判断	持ち直しの動き	東日本大震災の影響により、弱含み	
鉱工業生産	緩やかに持ち直している	東日本大震災の影響により、減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は東日本大震災の影響により、減少している。

鉄鋼は、アジア向け輸出が好調なことから、普通鋼鋼帯等を中心に堅調に推移している。化学は、医薬品が好調だったことから、増加している。輸送機械は、自動車が3月は東日本大震災の影響から大幅に減少している。一般機械は、2月の反動と東日本大震災の影響から大幅に減少している。電子部品・デバイスは、海外向けデジタルカメラ部品、ゲーム機向け集積回路、液晶素子で低調なことから、減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

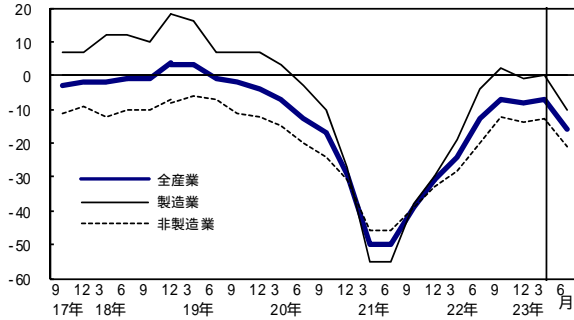
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
鉄鋼	16.5	1.6	7.0	10.0	0.1
化学	16.1	5.3	4.3	3.0	2.9
輸送機械	14.8	1.8	4.5	1.5	61.3
一般機械	10.7	3.9	3.3	4.6	8.6
電子部品・デバイス	7.3	2.7	0.2	1.7	-
鉱工業	100.0	2.1	1.9	1.7	4.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 1~3月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

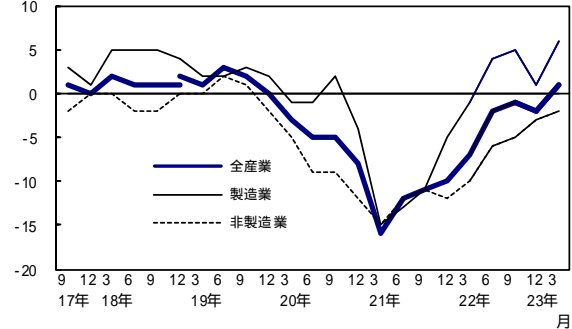
(2) 業況判断、資金繰り判断
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



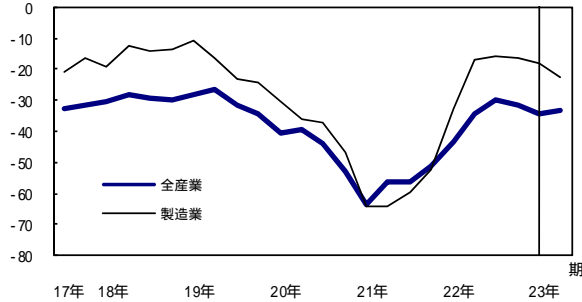
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年6月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「東日本大震災の影響で、東北地区の部品メーカーから入荷していた部品が滞ったことで、工場が数日間操業停止となっている(一般機械器具製造業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

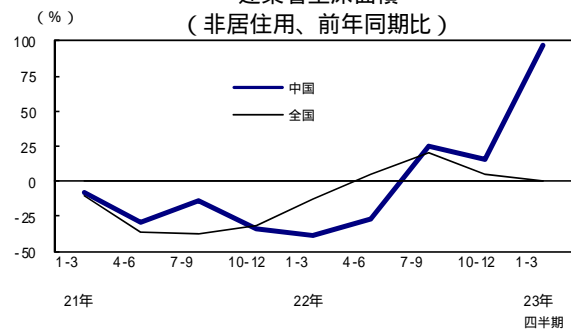
(3) 設備投資

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績見込み	23年度計画
全産業	1.5(5.9)	3.4
製造業	7.1(6.6)	6.8
非製造業	5.4(4.7)	1.4

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

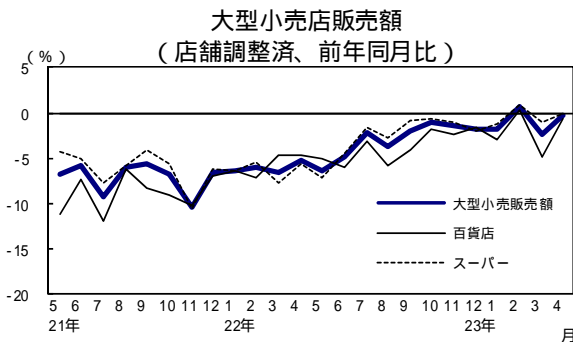
大型小売店販売額

百貨店は、1月は、山陰地方を中心に大雪により来客数が減少したことや、節約志向、セール前倒しの反動から前年比低下幅が拡大した。2月は、気温が高めに推移したことで、衣料品では春物、冬物ともに堅調な動きが見られた。食料品では恵方巻き等が好調だったため、前年比増加となった。3月は、衣料品で春物商材が苦戦したが、食料品では震災により買いだめがあり、昨年と変わらない動きとなった。日本百貨店協会によると、4月の広島を含む中国地区の売上高は、前年同月比で0.5%減となっている。

スーパーは、1月は、寒さにより鍋物商材が好調だったが、衣料品は低調。2月は、食料品は好調だったが、衣料品は低調に推移。3月は、震災の影響から飲食料品は好調に推移したが、衣料品、身の回り品は大幅減となった。

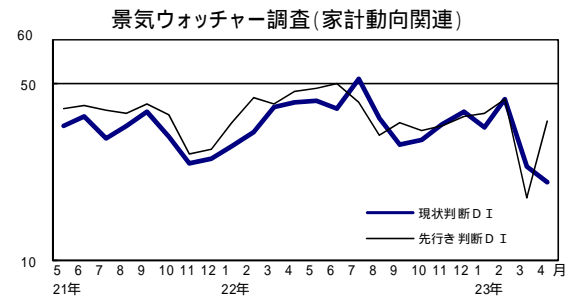
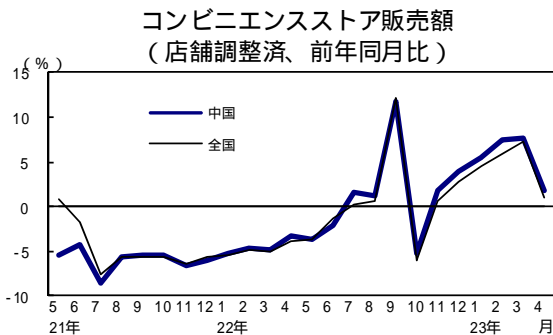
景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「東日本大震災後、建材や住宅器材などの調達が難しくなり、工事が進まなくなったり、今後の見通しが立たなくなったりしている状況である(設計事務所)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	22年4-6月	7-9月	10-12月	23年1-3月
大型小売店	5.5	2.6	1.4	1.2
百貨店	5.2	4.2	1.8	2.6
スーパー	5.7	1.8	1.2	0.6
乗用車	18.3	13.9	26.8	24.0
景気ウォッチャー	45.5	43.3	40.7	39.9

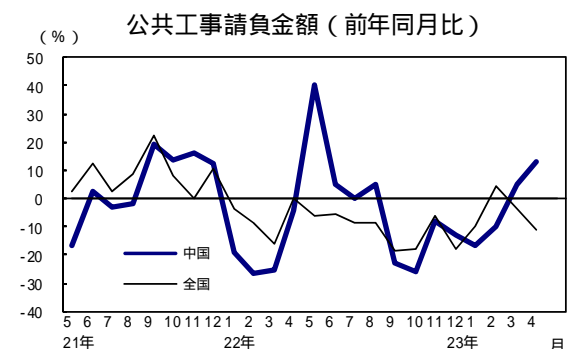
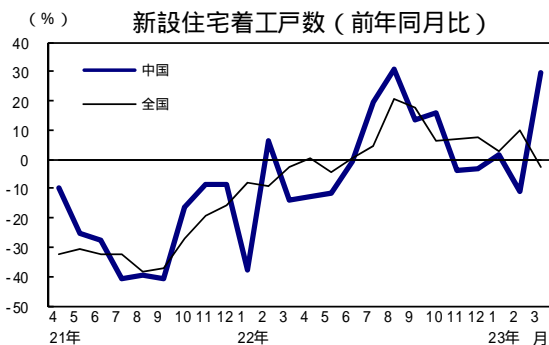
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。
 2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。
 3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、分譲が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

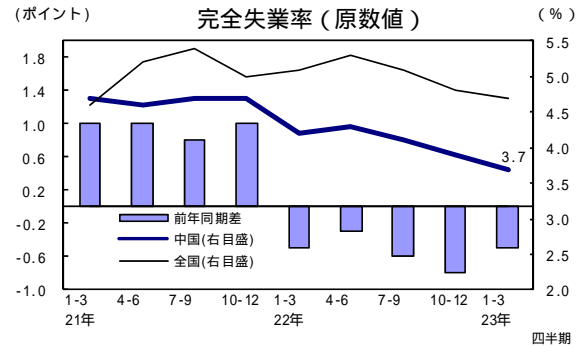
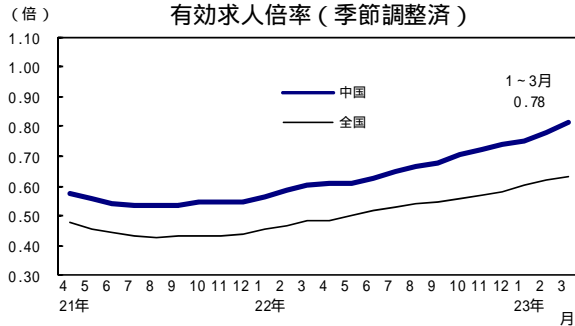


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。3月の新規求人数は増加している。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

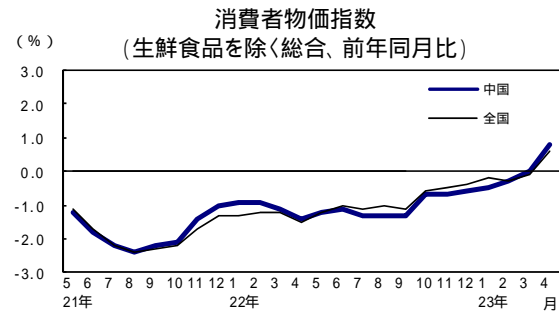
「3か月前に比べ東日本大震災の影響もなく、安定して求人がある（人材派遣会社）」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少し、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	22年4-6月	7-9月	10-12月	23年1-3月	23年4月
倒産件数	111	110	95	114	33
（前年比）	24.5	29.5	39.1	3.4	13.2
負債総額	244	213	170	2661	101
（前年比）	67.2	34.6	63.6	611.7	5.3



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- 東日本大震災による直接の被害はないが、自粛ムードや計画の先伸ばし等が広がっている。また、ベニヤ、一部金物等が品薄となり施工の面でも困難な状況で厳しい状態となっている（建設業）。

<先行き>

- 今後、震災復興向けの鋼材需要や自動車関連の生産も徐々に回復していく見込みである（鉄鋼業）。

